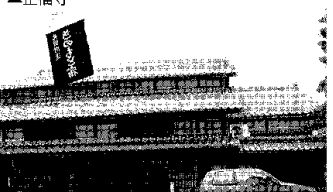
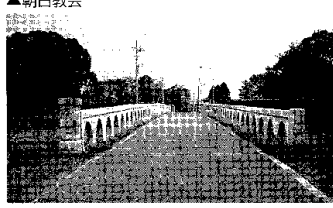
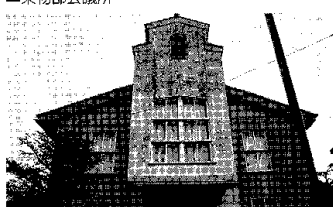
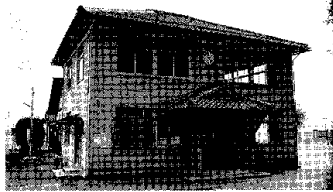
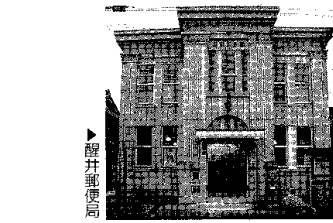
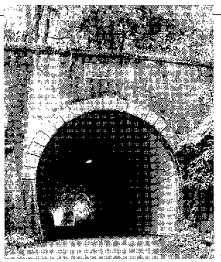


湖北の主な近代化遺産データ (白抜き数字は本文内に記事掲載)

| | | | |
|----|-------------------------|-----|-----------------------|
| 1 | 北陸本線 祝山トンネル | 77 | 関西電力㈱ 伊吹発電所 |
| 2 | 北陸本線 余呉トンネル | 78 | 大富砂防 |
| 3 | 北陸本線 集積等町橋梁 | 79 | 三之宮神社の石段 |
| 4 | 北陸本線 新倉掛トンネル | 80 | 春照溜 (菊花溜池) |
| 5 | 北陸本線 深坂・新深坂トンネル | 81 | 春照老人憩いの家 (旧春照会議所) |
| 6 | 旧小、中学及一般小渡船着場 | 82 | 涌上医院 |
| 7 | 湖北隧道 | 83 | 辻村酒店 |
| 8 | 塩津小学校 | 84 | 東海道本線 橋下のトンネル |
| 9 | 北陸本線 塩津中隧道 | 85 | 八幡道碑 |
| 10 | 余呉小学校講堂 | 86 | 南高田橋 |
| 11 | 杉本隧道 | 87 | 黒壁ガラス館本館 (旧百三銀行長浜支店) |
| 12 | 野神橋 (旧保野橋) | 88 | レーク伊吹農業協同組合 (旧鐘秀館) |
| 13 | 中川原橋 | 89 | 尾張屋ビル (旧開智学校校舎) |
| 14 | 宮下橋 | 90 | 安藤家住宅小蘭亭 |
| 15 | 柳ヶ瀬トンネル | 91 | 今雪酒店 |
| 16 | 土倉釜山跡 | 92 | 今西商店 (醤油業) |
| 17 | 杉野森林組合 | 93 | 北門前橋 |
| 18 | 旧川合郵便局舎 | 94 | カネボウ織機株式会社工場 |
| 19 | 川合農会館 (川合青年会館) | 95 | ガス灯 |
| 20 | 関西電力㈱ 高時川発電所 | 96 | 武徳殿 (旧長浜着道場) |
| 21 | アットリ隧道 | 97 | 十一橋 |
| 22 | 川合橋 | 98 | 徳元橋 |
| 23 | 滋賀県立伊香高等学校講堂 | 99 | 慶雲館 |
| 24 | 本陣薬局 | 100 | 旧長浜駅舎鉄道資料館 |
| 25 | 浄信寺明治天皇行在所 | 101 | 大宮橋 |
| 26 | 山路酒造 | 102 | 江州産業株式会社室工場 |
| 27 | 富田酒造 | 103 | 北陸本線 五井戸橋梁 |
| 28 | 丸ニテグス社屋 | 104 | 宮川橋 |
| 29 | 江北図書館 (旧伊香郡農会庁舎) | 105 | 近江網糸 |
| 30 | 旧滋賀銀行本/本支店 (旧湖北銀行本/本支店) | 106 | 口孫有限公司 |
| 31 | 高崎川発電所大見取水ダム | 107 | 香露園 |
| 32 | 伊香貝橋 | 108 | 大塚産業クリエイティブ (旧開智学校北舎) |
| 33 | 賤ヶ嶽隧道 | 109 | 醒井養鰯場 |
| 34 | 井形神橋 | 110 | 近江ベルベト製本工場 |
| 35 | 真西山門 (旧柳瀬閣所門) | 111 | ヤンマー長浜工場 ディーゼルエンジン1号機 |
| 36 | 北陸本線 高月駅駅舎 | 112 | 龍ヶ鼻トンネル側壁 |
| 37 | 朝雲橋 | 113 | 本庄町会館 |
| 38 | 東河原公民館 | 114 | 横山隧道・隧道碑 |
| 39 | 東物部会議所 (旧東高田村外六ヶ村戸長役場) | 115 | 神田幼稚園園舎 (旧神田尋常高等小学校) |
| 40 | 四家橋 | 116 | 神田公民館 (旧小学校) |
| 41 | 日本キリスト教団朝日教会 | 117 | 横響酒店 |
| 42 | 太田城瓦工場 | 118 | 日撫神社社務所 (旧日撫小学校) |
| 43 | 山本襦物工場 | 119 | 天野川橋 |
| 44 | 八日市区集会所 | 120 | 多和田公会堂 |
| 45 | 寿橋 | 121 | 山澤照神社社務所 (旧篤好学校) |
| 46 | 福橋 | 122 | 箕浦橋 |
| 47 | 乾橋 | 123 | 西野蚊帳株式会社 |
| 48 | 堂前橋 | 124 | 息長橋 |
| 49 | 井筒重幸商店 | 125 | 岩瀬公民館 |
| 50 | 三糸橋 | 126 | 龍尾山善光堂 |
| 51 | 田川のカルバート | 127 | 日本生命米原分駐所 (旧日本通運倉庫) |
| 52 | 北陸本線 虎炬駅駅舎 | 128 | 京屋呉服店 |
| 53 | 了見寺本堂 | 129 | 米原町セミナーハウス (旧米原小学校本館) |
| 54 | 滋賀県立虎炬高等学校 (屋内体操場・温室) | 130 | 東海道本線 旧仏生山トンネル |
| 55 | 宮部神社本殿及び中門 | 131 | 入江干拓場水場 |
| 56 | 大井橋 | 132 | 新川通船路 |
| 57 | 圓融寺本堂 (旧善隣館) | 133 | 旧長浜貯金銀行醒井出張所 |
| 58 | 真宗大谷派五村別院終堂 | 134 | 観見家住宅 (旧醒井村役場) |
| 59 | 正福寺本堂 (旧願浄寺) | 135 | 御置酒屋代治商店 |
| 60 | 妙蓮寺本堂 | 136 | 旧青木裁縫店 |
| 61 | 曾根東福寺地蔵堂 (旧曾根学校玄関) | 137 | 旧醒井郵便局局舎 |
| 62 | 難波橋 | 138 | 龍井公会堂 |
| 63 | 旧南浜港石積み | 139 | 多々美屋旅館 |
| 64 | 美浜橋 | 140 | 松尾寺政所 (旧醒井小学校玄関) |
| 65 | 谷坂隧道 | | |
| 66 | 太田橋 | | |
| 67 | 草野川発電所及び水路 | | |
| 68 | 忠霊碑 | | |
| 69 | 天下橋 | | |
| 70 | 山梨町民俗資料館 (旧大原村役場) | | |
| 71 | 観音坂隧道・隧道碑 | | |
| 72 | 城山橋 | | |
| 73 | 山梨興行組合 (通称べっちゃん) | | |
| 74 | 旧近江水力発電 姉川発電所 | | |
| 75 | 石灰窯跡 | | |
| 76 | 関西電力㈱ 小泉発電所 | | |



湖北の近代化遺産MAP

湖北の町には、アレ？と注意を引くような雰囲気を持たせようとする建物がけっこう残っている。その多くは、幕末から戦前ごろにかけての日本の近代化の時期、近代的手法によって造られたものだ。これらの建物には、機能的な美しさが見られたり、ノスタルジックな感傷を呼び起こす空気が漂っていたりする。とともに、近代化という便利さの裏側で、それを開発し、支えた多くの人たちの歴史も見えかかっている。



四年がかり、人力で掘る 明治政府の威信をかけた大工事 柳ヶ瀬トンネル

滋賀県と福井県の県境をぶち抜く鉄道隧道柳ヶ瀬トンネルは、四年の歳月をかけて、明治十七年四月に開通した、全長千三百五十一メートルの日本最古の最長トンネルである。測量は英国人技師の力を借りたものの、工事はすべて日本人の手で行ったこと、柳ヶ瀬断層という活断層の難工事を人力で掘り進めたこと、刀根トンネルでは二人の犠牲者を出しているが、一人の死者も出していないこと、日本の表と裏（太平洋と日本海）を結ぶ重要ポイントだったこと、明治政府が国力を賭けて取り組んだ、当時としては世紀の大事業だったことなどが特記できる。

その開通は、湖北の殖産興業に計り知れない恩恵をもたらした、日本の文明開化を加速させた。

この柳ヶ瀬トンネルは、昭和三十二年、北陸本線の新線が建設され、世界初の単相交流電化の開通を見るまで、現役として活躍していたのである。蒸気機関車の煤煙で鼻の下が真っ黒になったり、トンネル内はタオルで鼻や口を押さえていても、そのタオルが真っ黒

「のちのちの世まで立派に働いてくれ、末永く頼むぞ」。伊藤博文公がそんな願いを託した「萬世永頼」の碑は、柳ヶ瀬トンネルの滋賀県側の入口の上に設置されていた。いま実物は、旧長浜駅舎鉄道資料館の前庭に置かれている

「のちのちの世まで立派に働いてくれ、末永く頼むぞ」。伊藤博文公がそんな願いを託した「萬世永頼」の碑は、柳ヶ瀬トンネルの滋賀県側の入口の上に設置されていた。いま実物は、旧長浜駅舎鉄道資料館の前庭に置かれている

が、そのレプリカ（複製品）が柳ヶ瀬トンネル入口に設置されているのがうれしい。トンネルの構造を調べたいため、歩いてくぐりぬげようと思ったが、車が通れば人が歩ける余裕はない。トンネル内には何ヶ所か避難所がつけられているが、とても歩くことはできなかった。

そこで、当時のまま保存されている小刀根トンネル（長さ五十六メートル）をじっくり調べた。洞高は三・六メートル、幅員約三メートル。写真のように美しい馬蹄形をしている。側壁は二メートル近くまで切石を積み上げ、その上はアーチ状にレンガを四層に巻いている。開通から百二十年も経つのに、多少の水漏れはあっても歪みはない。じつに頑強な造りであり、整然と積まれた天井のレンガから仕事の確実さを見ることが出来る。柳ヶ瀬トンネルも、同一規格、同一構造である。

北陸本線の前身である長浜―敦賀間は「敦賀線」と呼ばれた。全長四十一キロメートル。工事は四工区に分けて、明治十三年、一斉に着工された。長浜―中之郷間や麻生口―敦賀間は二年で竣工しているのに、柳ヶ瀬隧道の工事は四年の歳月を費やしている。それだけ難工事だったのである。工事の様子を国鉄百年史をもとにたどってみよう。

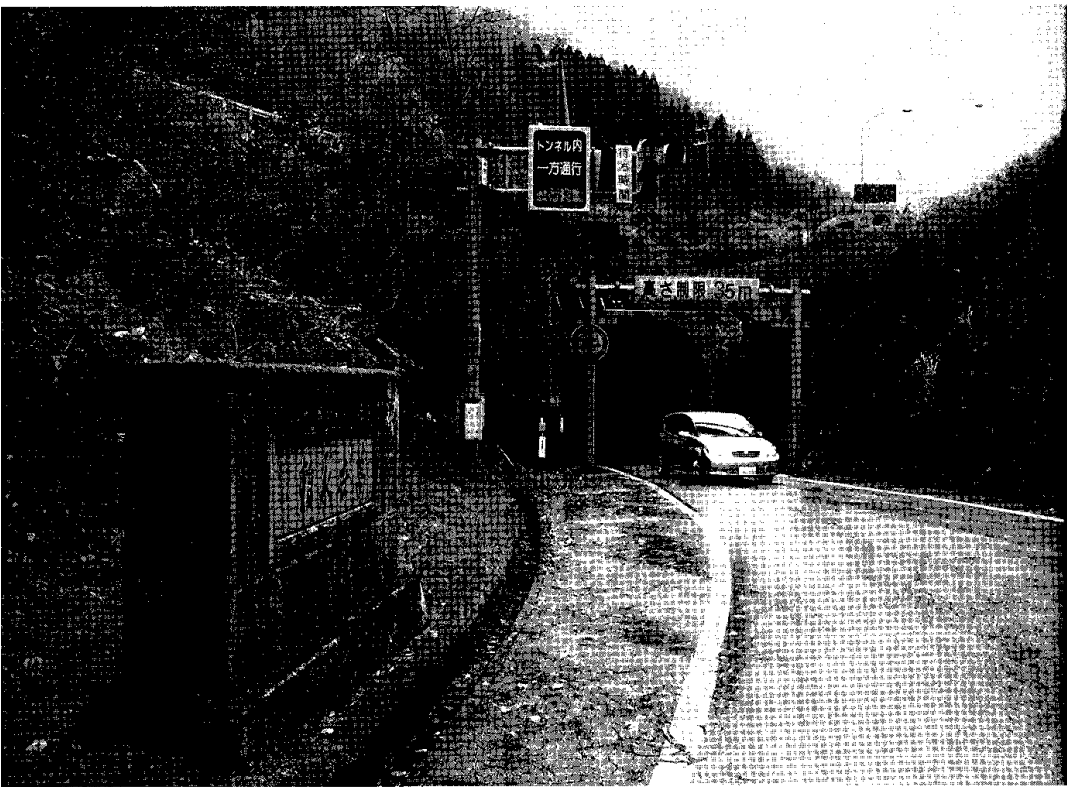
湧水と換気に苦しんだ

柳ヶ瀬トンネルは、四十分の一の片勾配で

福井県側に西下している。地質は迸発岩（トランプ）性の岩で硬質だったが、柳ヶ瀬断層が走っているためか、縦横に裂け目があり、崩落の危険箇所が多かった。隧道は滋賀県側からは一直線に進んでいるが、福井県の出口側で左にカーブしている。

掘削はすべて手掘り。部分的に火薬が使用された形跡がある。が、ダイナマイトはまだない。火縄銃や火花に使われていた黒色火薬程度だったのだろう。一日の出来高は、硬質部で約一メートル、軟質箇所は一・五メートル程度。落盤防止に支柱を林のように立て、そのなかに工食用線路を仮設して、掘削した岩石や土砂はトロッコで排出された。

柳ヶ瀬口は、湧水が甚だしかった。下り勾配のため坑道の奥にすぐに水が溜まってしまふ。そのため、足踏み水車数台を縦一列に並べて排水に努めた。しかし、一台が故障する



▲柳ヶ瀬トンネル、滋賀県側の入口。右上を北陸自動車道が走る。左が伊藤博文の「萬世永頼」の路板。



▲敦賀側の入口。クルマ一台通れるだけの幅員しかない。両側の入口には待ち時間を表示した信号がついている。